

東京都市計画道路放射第23号線 (世田谷区大原二丁目 ～杉並区和泉二丁目)

令和6年11月5日
建設局 道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	5
3. 事業の投資効果	6
4. 事業の進捗状況	11
5. 事業の進捗の見込み	13
6. コスト縮減等	14
7. 対応方針(原案)	15

1. 事業概要(1)

[全体概要]

路線名:放射第23号線

区 間:港区北青山三丁目
～杉並区松庵一丁目

延 長:約12.0km

[今回評価区間]

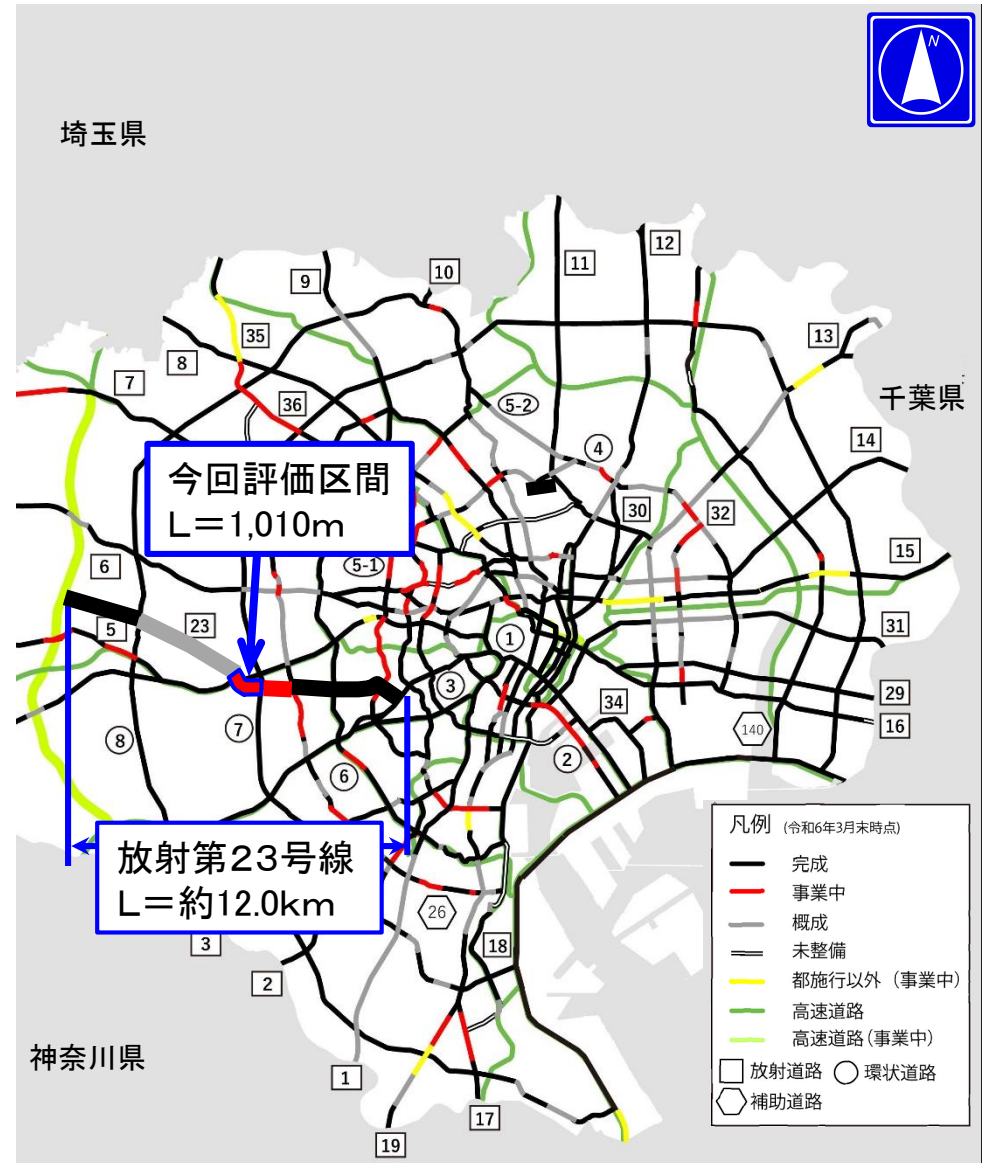
区 間:世田谷区大原二丁目
～杉並区和泉二丁目

延 長:1,010m

幅 員:25～33m(2車線)

事業費:約161億円

年度	計画等
昭和41年7月30日	都市計画決定
平成27年12月24日	事業認可取得
令和13年3月31日	事業認可期間



1. 事業概要(2)

今回評価区間周辺の概要



同一路線の沿道状況



事業の効果

- 自動車交通の円滑化が図られるとともに、歩行者や自転車の快適性や安全性が向上します。
- 緊急車両のアクセスや避難路としての機能がより一層充実するため、地域の安全性や防災性が向上します。
- 電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観を創出します。

1. 事業概要(3)

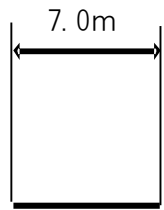
平面図

今回評価区間 L=1,010m W=25~33m

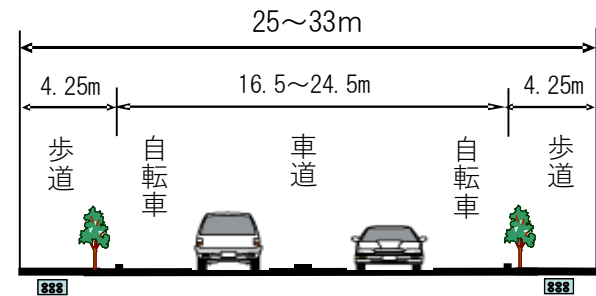


■ 事業範囲 ■ 現道

現況(一部)



計画



※計画断面図は確定したものではありません。

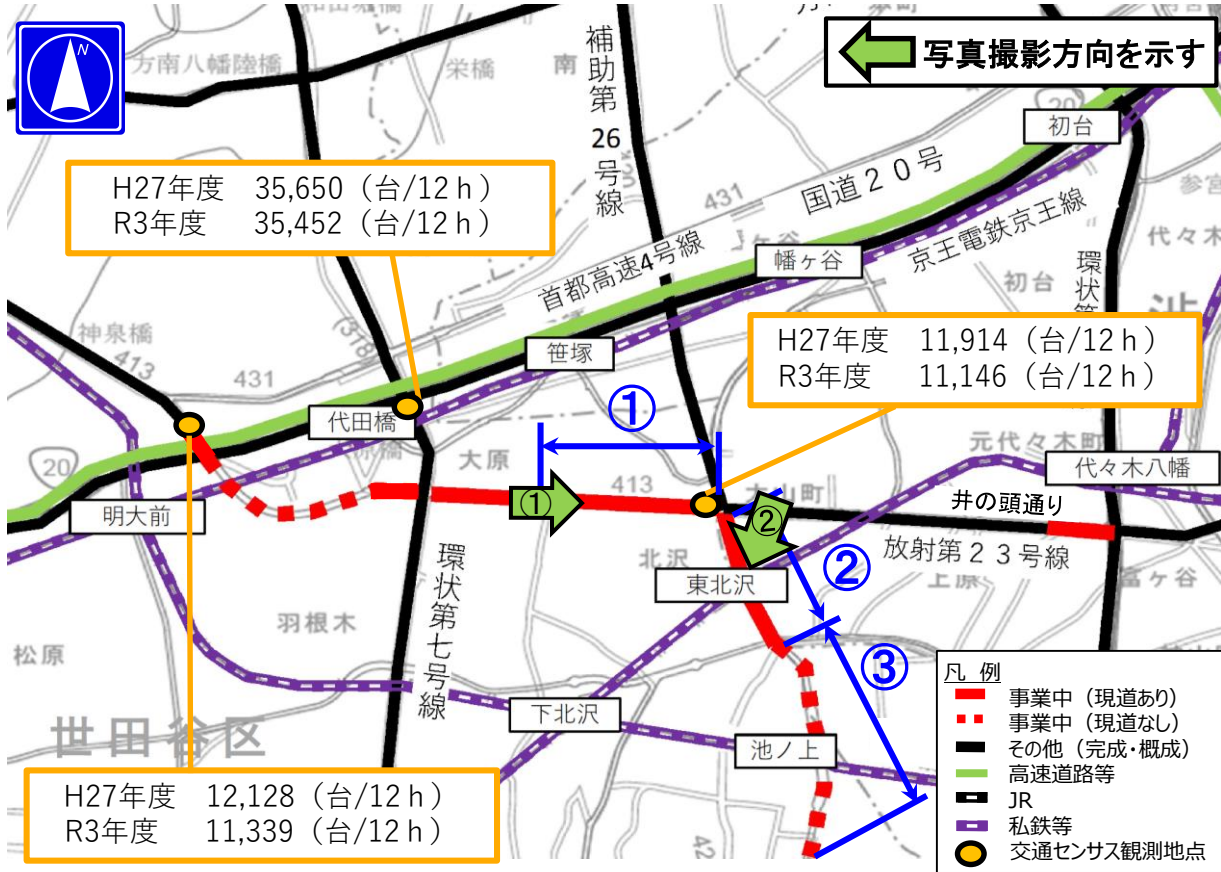
1. 事業概要(4)

今回



事業範囲 現道

2. 社会経済情勢等の変化



社会経済情勢の変化

■ 本路線周辺の現況交通量
R3年度は、H27年度と比較して横ばい

関連する他事業等の進捗状況の変化 (R5年度末時点)

	施行	地区	着手年度	用地	工事
①	東京都	放射第23号線(北沢)	平成3年	99%	実施中
②	東京都	補助第26号線(東北沢)	平成18年	99%	実施中
③	東京都	補助第26号線(代沢)	令和元年	26%	未実施

3. 事業の投資効果(1)

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益	472.2億円
走行時間短縮便益	387.8億円
走行経費減少便益	67.4億円
交通事故減少便益	17.0億円

【費用(C)の算定】

現在価値化総費用額	142.2億円
工事費	36.5億円
用地費	100.2億円
維持管理費	5.5億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 令和5年12月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

B/C = 3.3(前回 -)

(参考)社会的割引率2%の場合: B/C = 5.8、社会的割引率1%の場合: B/C = 9.0

※現在価値算出のための社会的割引率は4%を用い、比較のために参考として2%及び1%として算出した結果を併記する。
なお、参考比較のための値は平成15年(2003年)~令和4年(2022年)の期間の国債の実質利回りを踏まえた1%、及び、平成5年(1993年)~令和4年(2022年)の期間の国債の実質利回りを踏まえた2%としている(公共事業評価に関する技術指針(令和5年9月国土交通省))。

3. 事業の投資効果(2)

定性的効果

	事項	該当
交通	交通渋滞の解消	◎
	物資流動円滑化への寄与	○
	バスの定時性	○
	迂回交通の減少	○
景観	都市景観の向上	○
防災	緊急車両の走行	◎
	延焼遮断	○
	災害時の避難路の確保	◎
	消防活動困難地域の解消	○

	事項	該当
くらし	土地利用の転換・高度化	○
	交通不便地域の解消	○
	商業・産業の活性化	○
	公共施設へのアクセス向上	○
安全	交通事故の減少	○
	バリアフリー化	○
	自転車や歩行者のための空間確保	◎
	その他	

※該当欄の◎は次頁以降に概要あり

3. 事業の投資効果(3)

定性的効果

<交通>・交通渋滞の解消

- 本路線の整備により、甲州街道を含めた道路ネットワークの形成を図り、周辺道路の負荷を軽減させる。
- 主要渋滞箇所となっている、『大原交差点』等の渋滞を軽減することが見込まれる。



■	事業範囲	➡	現況交通	★	主要渋滞箇所(R5.9)
■	現道	➡	将来交通		



3. 事業の投資効果(2)

定性的効果

- 〈防災〉・緊急車両の走行
- ・災害時の避難路の確保

- 本路線の整備により、第一次緊急輸送道路の機能が強化され、**防災性が向上する。**
- 水道局西部支所や東京都消防庁幡ヶ谷庁舎などへの、**防災拠点等へのアクセス向上**が図られる。

避難場所一覧

①	明大和泉校舎一帯
②	区立代々木大山公園・製品評価技術基盤機構一帯
③	明治神宮・代々木公園一帯
④	コーシャハイム中野弥生町・立正佼成会大聖堂一帯
⑤	本五ふれあい公園一帯
⑥	東京大学附属中等教育学校一帯
⑦	西新宿地区
⑧	セシオン杉並・妙法寺一帯
⑨	蚕糸の森公園一帯



- 一次路線:** 応急対策の中核を担う都本庁舎、立川地域防災センター、重要港湾、空港島を連絡する路線
- 二次路線:** 一時路線と区市町村役場、主要な防災拠点(警察、消防、医療等の初動対応機関)を連絡する路線
- 三次路線:** その他の防災拠点(広域輸送拠点、備蓄倉庫等)を連絡する路線

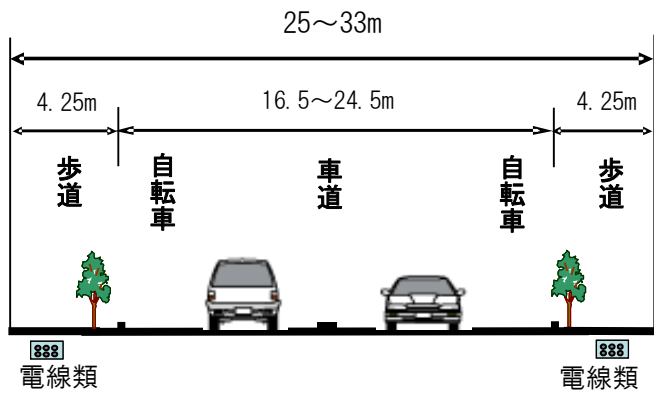
3. 事業の投資効果(5)

定性的効果

<安全> 自転車や歩行者のための空間確保



標準横断面図



※計画断面図は確定したものではありません。

安全で快適な歩行空間となる

4. 事業の進捗状況(1)

事業費の執行状況

(R5年度末時点 カッコ内は前回評価時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費(百万円)	14,117(-)	2,029 (-)	16,146 (-)
執行済額(百万円)	6,948 (-)	69(-)	7,017(-)
執行率(%)	49.2(-)	3.4(-)	43.5(-)

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
18,631m ²	6,227m ² (-)	33.4%(-)

4. 事業の進捗状況(2)

一定期間を要した背景等

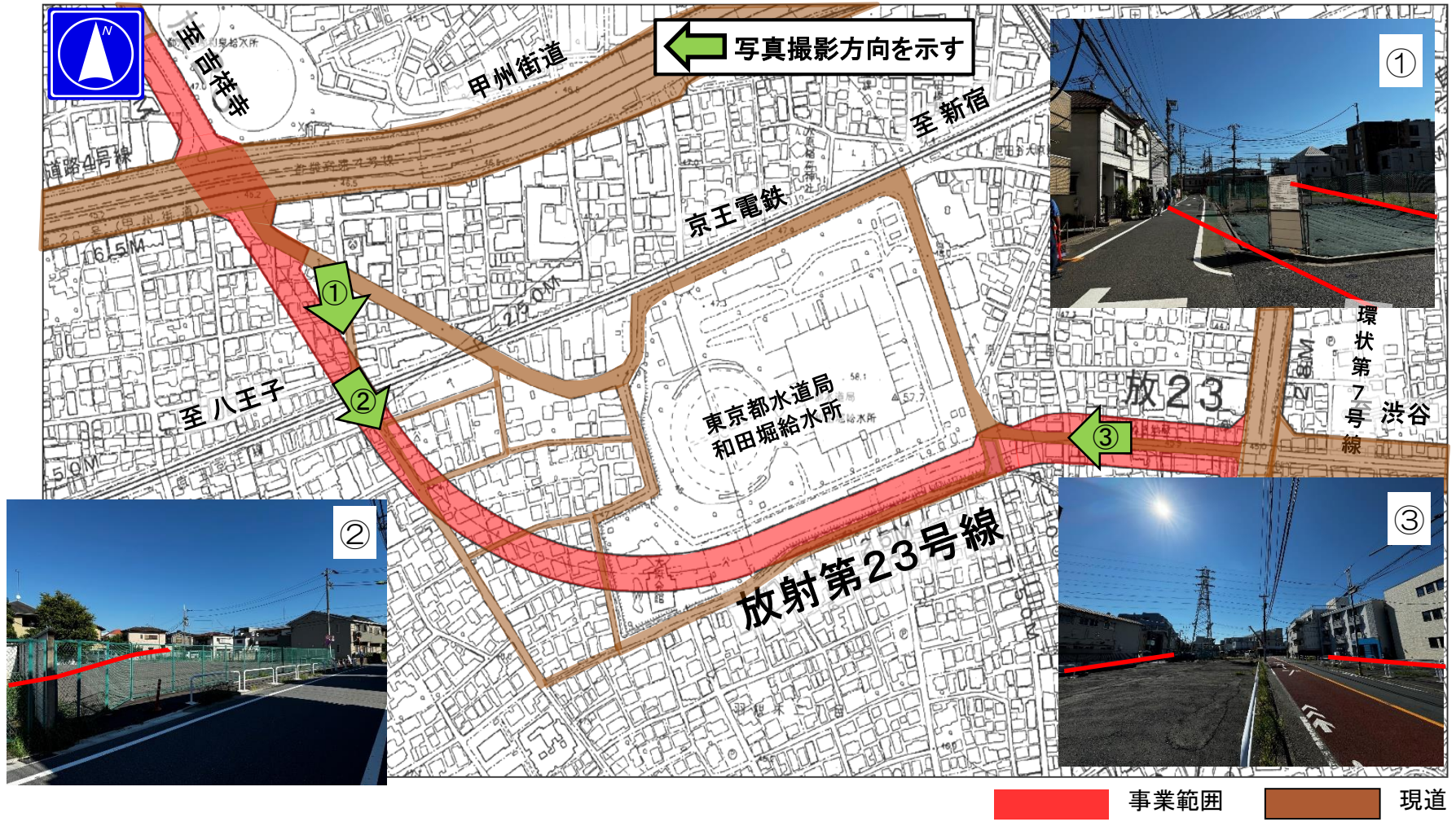
- 現道のない新設道路のため地権者が多いこと、大規模な公共インフラ施設があることなどから、用地取得に時間を要している。

事業の進捗状況・残事業の内容

- 用地は約33%取得済である。
残る未取得用地も引き続き地権者との折衝を進めている。
- 工事は未着手である。
着手に向けて、関係機関との協議及び設計を進めている。

5. 事業の進捗の見込み

残事業の取り組み及び進捗の見通し等



- 残る未取得用地についても早期取得を目指し、計画的に折衝を進めていく。
- 用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事に着手していく。

6. コスト縮減等

新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- 一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性は極めて少ない。

コスト縮減等の取組

- 施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。
- 無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画(R3.6改定)を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。
- 中温化アスファルトの原則活用を通じ、二酸化炭素の排出量抑制に繋げる。

【埋設深さの浅層化】	【新たな管路材料の採用】
<p>埋設深さの改定により、土工にかかるコスト縮減や作業時間の短縮を実現</p>	<p>従来の CCVP 管より安価な ECVP 管や施工性も考慮した角形多条電線管への移行</p>

HTT 低炭素アスファルトとは

アスファルト混合物

アスファルト + 骨材

+

+

水蒸気

通常と比べ製造時の加熱温度を10~30℃下げ、CO2排出量を削減 (-30℃の場合、-2.7 (kg-CO2/t))

7. 対応方針(原案)

(事業の必要性に関する視点)

- 自動車交通の円滑化が図られるとともに、歩行者や自転車の快適性や安全性が向上します。
- 緊急車両のアクセスや避難路としての機能がより一層充実するため、地域の安全性や防災性が向上します。
- 電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観を創出します。

(事業の進捗と見込みの視点)

- 用地は約33%取得済であり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、計画的に折衝を進めていく。
- 用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事に着手していく。



対応方針(原案)継続

- ・事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。
- ・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。